



瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

年間第 29 主日 B 年 (2024 年 10 月 20 日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：イザヤ書 53 章 10 — 11 節

第二朗読：ヘブライ人への手紙 4 章 14 — 16 節

福音朗読：マルコによる福音書 10 章 35 — 45 節

苦難の僕はだれか

第一朗読は『イザヤ書』からです。『イザヤ書』40 章—55 章は、いわゆる第二イザヤとよばれるものです。四つの主の僕の歌がその中にはありますが、今日の朗読箇所は四番目の主の僕の歌から採られています。僕が自分の罪のゆえではなく、人々に代わって神さまに打たれる。その打ち傷によって人々は癒され、救われます。僕は、自分のいのちの激しい苦しみ跡を見て満足します。しもべの身代わりの死は多くの人を義とするのです。今日の朗読の冒頭、「望まれ」と「望まれること」に注目してください。前者は動詞の「ハーフェーツ」、後者は名詞の「ハーフェツ」です。動詞の方は、みこころであった、望まれた、志とした、欲した、喜んだの意味です。名詞の方もみこころ、望まれること、志、意に合うことなどの意味になります。いずれにせよ、主なる神ご自身の喜びが込められた御旨そのものを表しています。

ここでは、この言葉に二重の意味を見つけることができるでしょう。一つには主がその民の罪の贖いのために「主の僕」を打ち砕くという望み、御旨。そして神の民イスラエルを新しく生まれ変わらせ、主の僕もよみがえって子孫を永遠に見るようになるという望みです。いずれにせよ主の望みは「主の僕」によってのみ成し遂げられるのです。しかもその「主の僕」の苦しみを通じて。

「償いの献げ物」は通常、雄羊がささげられました（レビ 5 章 14—19、25—26 節、7 章 1—7 節、19 章 21 節）。儀式の中で祭司によって血が注がれました。しかし、本節では僕自身が償いの献げ物となります。旧約聖書中、人間が犠牲として献げられることが示唆されるのはここだけです。

第二朗読ですが、『ヘブライ人への手紙』4章14節から本書の中心テーマである大祭司キリストについての論述が始まります。すでにイエスは**大祭司**であると述べられています(2章17節、3章1節)。しかし、それは**神の言葉への服従**というテーマの中での言及でした。しかし、今日の朗読箇所から始まるのは、大祭司キリストがどのような方であるかという、いわば、キリストの存在についての考察です。今日の朗読箇所は、3章1節—4章13節にかけて繰り返された勧告の形式をとっています。しかし内容的には、大祭司キリスト論の導入となります。

15節をみてみましょう。すでにイエスさまについては「**憐れみ深い、忠実な**」大祭司と呼ばれていますが(2章17節)、さらにここでは詳細に説明されます。大祭司イエスは「わたしたちの弱さに同情でき」という意味で**憐れみ深い**方なのです。ここでの「弱さ」は複数形ですから、肉体的な弱さと道徳的な弱さの両面にとらえてよいでしょう。「同情」は、「共に苦しむ」の意味です。他者の苦しみの中に自らも入り込み、その苦しみを自分の苦しみとして背負うという意味です。「罪を犯されなかったが」はイエスさまの人間性の完全さをあらわしています。しかし、人間一般が体験する**試練**を、同じようにイエスさまは体験します。

朗読の最後、16節にある「**恵みの座**」とは神が座しておられる**玉座**のことです。復活し、天の御父のもとに帰ったイエスさまは、神の座についておられ、人間のために神の恵みを執りなします。至聖所にあった**贖いの座**(レビ16章11—14節、出25章17—22節)をも暗示するのでしょうか。つまり、旧約の大祭司が幕屋を**通**って、至聖所の贖いの座へと向かったように、今度はキリスト者が神の座におられるキリストへと向かって進んでいくのです。

福音朗読では、37節が興味深いです。「**栄光をお受けになるとき**」は直訳すると「あなたの栄光の中で」(エン・テー・ドクセー・スー)。右の座は**栄誉の座**(詩110編1節参照)、左は次に栄誉のある座です。ヤコブとヨハネは、イエスさまの**受難**を無視し、ただ**栄光**を考えて、その中での高い地位を望んでいます。「座る」はカシゾーですが、もともとは通常の「座る」の意味ですが、特別な用例で高い地位の人がそのために用意された**特別の座席**に「つく、座る」ことも意味します。それは**権威**を表します。神は御座に「座る」方で、イエスさまもまた神の右の座に着く方なのです(マコ16章19節)。

お知らせ

10月27日は**ロザリオ祭**です。

10時半から**アントニオ会館の庭**でミサとなります。

ミサ後、軽食をいただきながら懇談しましょう。